

2. 柿田川の歴史

2-1 移り変わり

◆市街化の進む柿田川周辺

柿田川の流れる清水町は、沼津市と三島市の間に位置し、国道1号が通過していることや新幹線三島駅にも近いことから、住宅地として市街化が進んでいます。

人口は1960年代に大きく増加し、2000年には約3万人に達しています。(図2-1参照)

土地利用も、田畑が減少し宅地が増加しています。(図2-2参照)

都市計画では、柿田川は都市計画緑地に、周辺は市街化区域に指定されています。(図2-3参照)

Shimizu-cho, where the Kakita River flows, is conveniently located between Numazu City and Mishima City on National Route 1. There, urban and residential development is well-advanced.

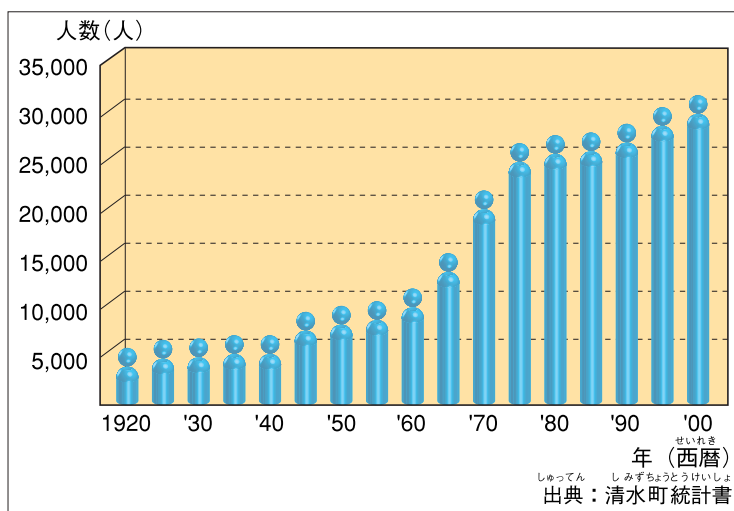


図2-1 人口の推移
Population

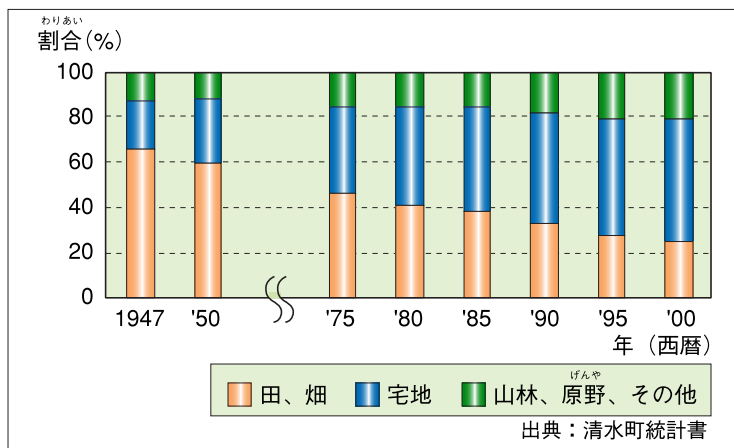


図2-2 土地利用の推移
Land Utilization

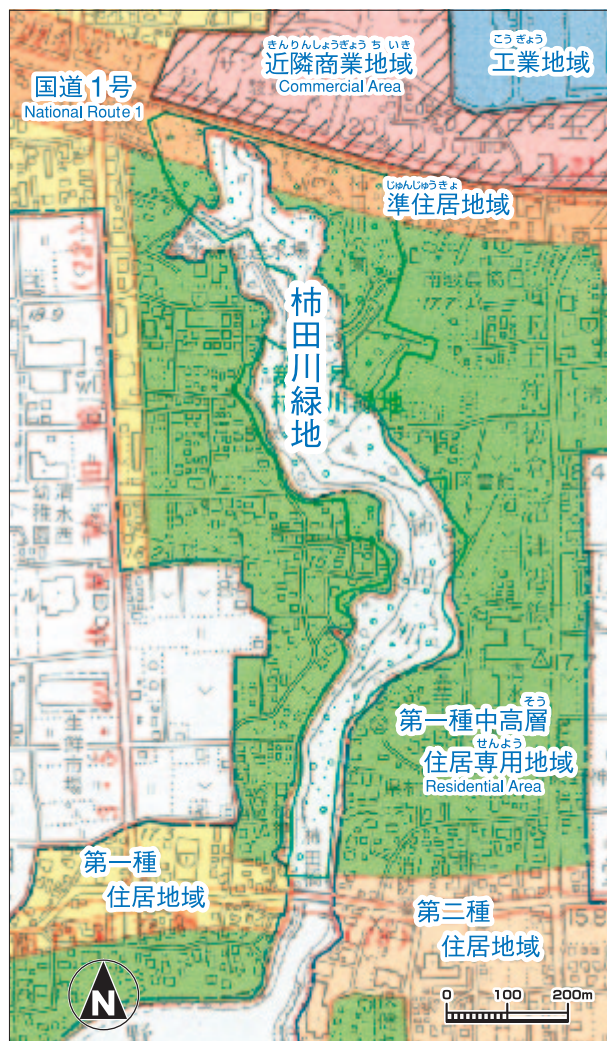


図2-3 清水町都市計画図(柿田川周辺)
City Planning Chart

年代別の空中写真を比べてみると、柿田川周辺は農地から^{たくち}宅地に変化して市街化が進んでいることがわかります。(図2-4参照)

柿田川の上流部^{じょうりゅうぶ}は、現在の国道1号の開通^{かいつう}（1964年）により地形が変化していますが、下流部^{かりゅう}は大きな地形の変化は見られません。

川の中は豊かな自然が残っていますが、両岸の河畔林^{かはんりん}は川沿いに細長く残っているだけで、すぐ近くまで市街化が進んできています。

The aerial photographs of the area around the Kakita River show the extent of the conversion of farmlands into residential areas.

In the river, Nature is surviving. However, much of the forest that once lined its banks has been destroyed by advancing urban development. The forest has been reduced to narrow strips paralleling the river.

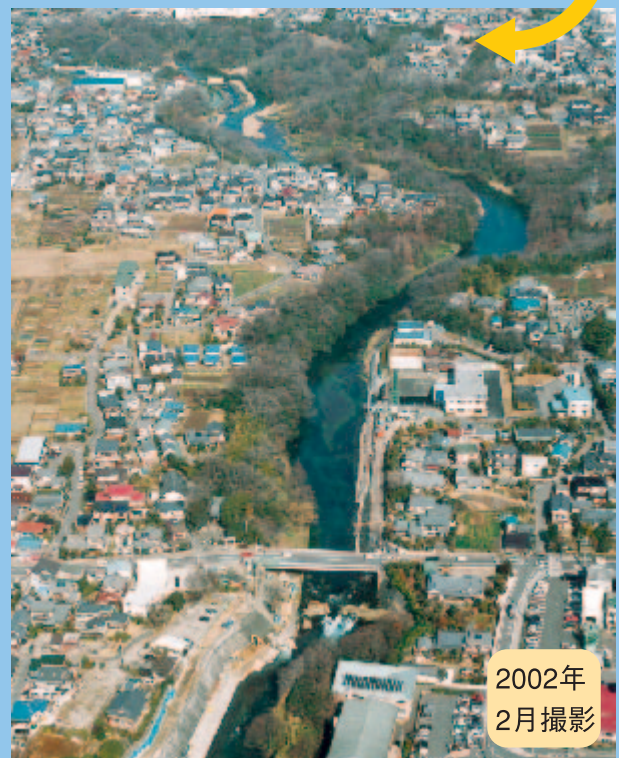


1947年
9月撮影

この写真は、国土地理院長の承認を得て
米軍撮影の空中写真を複製したものである
(承認番号 平13部複、第338号)



1981年
9月撮影



2002年
2月撮影

図2-4 柿田川周辺の年代別空中写真

2-2 地域との関わり

柿田川周辺には、出土した土器片より縄文時代や弥生時代から人が住んでいたと考えられます。^{※1} 柿田川は周辺の農耕地より低いため農業用水としての利用はありませんでしたが、柿田川に生える水草を肥料として利用していました。^{※2}

また、戦国時代には北条氏が柿田川を堀として利用し、泉頭城を築城しました。^{※3} 江戸時代初期には徳川家康の隠居所を造る計画もありましたが、家康の死亡により中止となりました。^{※4}

柿田川の水を本格的に利用し始めたのは、水をくみ上げる技術が発達した1910年代からです。最初は製紙や紡績工場などの工業用水、^{※5} 農業用水^{※6} として利用され、戦後には飲料水^{※7} としても利用されるようになりました。

1960年代から湧水量の減少、開発計画等柿田川を取り巻く環境が変化し、住民の柿田川に対する関心が高まりました。^{※8} (財)柿田川みどりのトラストなどによる柿田川の環境を守る運動が進められ、名水百選に選定されるなど全国的な知名度も高まりました。^{※9}

In the river, Nature is surviving. However, much of the forest that once lined its banks has been destroyed by advancing urban development. The forest has been reduced to narrow strips paralleling the river.

In the 1960's, local residents became increasingly concerned about the Kakita River. Their promotion of the movement to protect its environment, increased the national notability of the Kakita River.

縄文・弥生時代 紀元前4～3世紀	奈良・平安・鎌倉時代 710年～	南北朝・室町・安土桃山時代 1336年～	江戸時代 1603年～	明治 1868年～	大正 1912年～	昭和 1926年～	平成 1989年～		
<p>※1 農耕の開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽土器片の出土 (紀元前後～9世紀) 条里制の施行 					<p>※5 工業用水</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽高野製紙会社 (1913年) ▽大東紡績会社 (1918年) 			<p>※6 農業用水</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽長沢揚水機 (1925年) ▽柿田川揚水機 (1927年) 	
<p>※2 水草を肥料として利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽駿河国主今川氏真の朱印状 (許可書) 発行 (1570年) 水草の利用許可 <p>この頃、柿田川は泉川、地域は泉郷と呼ばれていた。</p>					<p>※7 飲料水</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽沼津清水上水道 (1950年) ▽駿豆水道 (1970年) <p>高度成長期 (1960年～) → 取水量の増加</p>			<p>※8 環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽現在の国道1号開通 (1964年) 水源域の開発 (工場、ゴルフ場等) → 湧水量の減少 周辺の市街化 → 水質の悪化 ▽湧水から有機溶剤の検出 (1988～89年) 	
<p>※3 泉頭城の築城</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽北条氏康による泉頭城の築城 (1555～57年) 					<p>※9 環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽柿田川自然保護の会設立 (1975年) ▽「21世紀に残したい日本の自然百選」選定 (朝日新聞社・森林文化協会、1983年) ▽「名水百選」選定 (環境庁、1985年) ▽ (財) 柿田川みどりのトラスト設立 (1988年) ▽「静岡県のみずべ100選」選定 (静岡県、1995年) ▽環境護岸整備事業 水際の自然再生 (国土交通省) (2001～2002年) 			<p>初期の柿田橋できる (1671年)</p>	
<p>※4 家康の隠居所計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽徳川家康の隠居所のため、泉頭城跡の縄張り (1615年) 					 <p>旧柿田橋 (通称眼鏡橋) と水車小屋 (1920年頃)</p>			 <p>駿河国駿東郡泉頭図 (出典：駿国雑誌 1820～1843年)</p>	